

日本真空工業会 関西支部 第29回定時総会

関西支部 事務局 山内 信三
(株式会社大阪真空機器製作所)

1. 第29回定時総会

平成27年5月26日(火)大阪弥生会館で関西支部第29回定時総会、講演会、懇親会が開催されました。「第29回定時総会」は内田副支部長の司会により、笠岡支部長が議長として開催され、支部長挨拶の後、昨年の総会以降の入会は日造精密研磨(株)1社、退会は(株)鈴木商館、アステック(株)2社と報告されました。

会員異動により、会員総数は54社と4名となり、第29回定時総会には代理出席並びに書面による議事参加を含め47社の参加者があり、規約の1/2(29社)以上の定足数充足を確認しました。

加島副支部長より「2014年度支部事業報告及び収支決算」「2015年度事業計画及び予算案」を提案し、最後に議案全て一括承認されました。

続いて日本真空工業会本部 伊藤専務理事よりJVIAの「第31回定時総会議案書」に沿って本部活動報告の後、終了しました。



総会

2. 講演会

総会に引き続き、大阪工業大学工学部ロボット工学科教授 本田幸夫様が「IoT、AI、ロボット、次世代の新産業で必要になる技術戦略」というテーマで講演され、52名の参加者が聴講しました。

先生は、高齢化社会を迎えるにあたり、要介護者の増加が一番の問題となるというお考えをお持ちで、元気な高齢者が以前より激減している現実から、破綻が予想される保険頼りの介護よりも、自費で行う自立支援にビジネスチャンスがあるそうですが、現在よく見られる装着型ロボットは、脱着を考えると非現実的で自立支援には程遠いそうです。

一方、欧米では人間の幸せは社会とつながっていることだという観点でIoTを使おうとしているものの、ネットワークを中継するハブの電力が桁違いに増えることで、電力不足が懸念されるようです。

日本は最先端の技術開発ばかり追いかけて、産業化(ビジネス)で負けているとのことでした。そしてIoTとは製品への



講演会と本田教授

センサの付加であり、それはコストアップに直結するため、今は様子見をすべきというお考えでした。

本田先生の講演は色々なロボットの映像紹介がふんだんにあり、大変興味深い内容でした。

3. 懇親会

出席者は46名で、笠岡支部長の挨拶のあと、来賓挨拶として日本真空工業会本部 伊藤専務理事からはJVIAホームページ利用の紹介があり、近畿経済産業局の製造産業課 森下様からは、講演会の感想及び「ものづくり補助金」の御紹介、航空機分野でのグループ化の紹介、新素材セルロースナノファイバ活用の御提案と日本真空工業会会員各社の発展を祈願するとのご挨拶を頂きました。

その後の乾杯の発声は関西支部の生駒幹事が行い、関西支部の草創期のエピソード披露の後、会が始まりました。

会場では講演者本田様のお話を熱心に聴く人や、あちこちで笑い声が聞こえ盛況のうちに、日本真空学会関西支部長 川上様の中締めを以って閉会となりました。



笠岡支部長



一般社団法人 日本真空学会
川上関西支部長



日本真空工業会本部
伊藤専務理事



近畿経済産業局
製造産業課 森下様



関西支部 生駒幹事



懇親会